

割印押印先

★印の御城印販売先で割印を押印することができます。

①種里城（たねさとじょう）

〔1〕 光信公の館★（割印No.1・2）
青森県鰺ヶ沢町大字種里町字大柳90
0173-79-2535 ※11-翌年4月は冬季休館・販売休止
〔2〕 日本海拠点館★（割印No.1・2）
青森県鰺ヶ沢町大字舞戸町字北禿181
0173-72-5555 ※11-翌年4月は販売休止

②浪岡城（なみおかじょう）

青森市中世の館★（割印No.3）
青森県青森市浪岡字岡田43 0172-62-1020

③野辺地城（のへじじょう）

野辺地町立歴史民俗資料館★（割印No.4）
青森県野辺地町字野辺地1-3 0175-64-9494

④七戸城（しちのへじょう）

七戸町観光交流センター★（割印No.4・5）
青森県七戸町字荒熊内207 0176-51-6100

⑤根城（ねじょう）

〔1〕 史跡根城の広場本丸受付
青森県八戸市大字根城字根城47 0178-41-1726
〔2〕 八戸市博物館★（割印No.5・6）
青森県八戸市大字根城字東構35-1 0178-44-8111

⑥聖寿寺館（しょうじゅじたて）

史跡聖寿寺館跡案内所★（割印No.7・8）
青森県南部町大字小向字正寿寺81-2 0178-23-4711

⑦三戸城（さんへのじょう）

三戸町立歴史民俗資料館★（割印No.3・7・9）
青森県三戸町大字梅内字城ノ下34-29
0179-22-2739 ※12-翌年3月は冬季休館・販売休止

⑧九戸城（くのへじょう）

⑨浄法寺城（じょうぼうじじょう）
二戸市埋蔵文化財センター★（割印No.9・10・11・12）
岩手県二戸市福岡字八幡下11-1
0195-23-8020

⑩姉帯城（あねたいじょう）

御所野縄文博物館★（割印No.10）
岩手県一戸町岩館字御所野2 0195-32-2652

⑪久慈城（くじじょう）

0194-66-9200（久慈市観光物産協会）
道の駅くじ「やませ土風館」★（割印No.1・13）
岩手県久慈市中町二丁目5番6

⑫盛岡城（もりおかじょう）

もりおか歴史文化館★（割印No.11・14・15）
岩手県盛岡市内丸1-50 019-681-2100

⑬高水寺城（こうすいじじょう）

⑭片寄城（かたよせじょう）
紫波町情報交流館（オガールプラザ内）★（割印No.12・14）
岩手県紫波町紫波中央駅前2-3-3 019-672-2918

⑮鍋倉城（なべくらじょう）

遠野市立博物館★（割印No.6・16）
岩手県遠野市東館町3-9 0198-62-2340

⑯土沢城（つちざわじょう）

⑰花巻城（はなまきじょう）
花巻市博物館★（割印No.15・16・17）
岩手県花巻市高松26-8-1 0198-32-1030

⑱金沢城（かねざわじょう）

後三年合戦金沢資料館★（割印No.2・8・13）
秋田県横手市金沢中野字根小屋102-4 0182-37-3510

割印押印の心得

- 一、割印押印は無料です。
- 二、割印押印希望者は、販売先職員に対象の御城印を提示し、押印希望する旨をお申し出ください。
- 三、割印は来場者様に押印していただきます。押印ミスによる返品・返金はいりません。
- 四、割印のインクカラーは販売先ごとに異なります。

事務局

南部御城印プロジェクト事務局（八戸市博物館）
青森県八戸市大字根城字東構35-1 0178-44-8111

各種情報

最新情報は「南部お城めぐりフェイスブック」
<https://www.facebook.com/NanbuGojoinProject/>
旅のお供に「南部お城めぐりガイド」
<https://hcm-hit.github.io/nanbu-castles-tours/>
リーフレットはこちらでダウンロード「八戸市博物館HP」
<https://hachinohe-city-museum.jp/goods/>



なんぶのワリイン

「なんぶのワリイン」とは？

「南部お城めぐり」に参加する特定の御城印の組み合わせに「割印」を押印できます。
割印の組み合わせは17組で、内容はそれぞれのお城の関係を示しています。
皆さんも、御城印に割印を押印し、南部の歴史をお楽しみください。



なんぶのワリイン

「なんぶのワリイン」とは、南部御城印プロジェクトの御城印に割印を押すことができるという企画です。

割印の組み合わせは17城館17組で、内容はそれぞれのお城の関係を示しています。

「三日月の丸くなるまで南部領」と謳われた広大な南部領は一朝一夕にできたものではありません。南部氏一族の武士たちは同盟と対立、そして隣郡への侵攻を繰り返し、南部領を築きました。

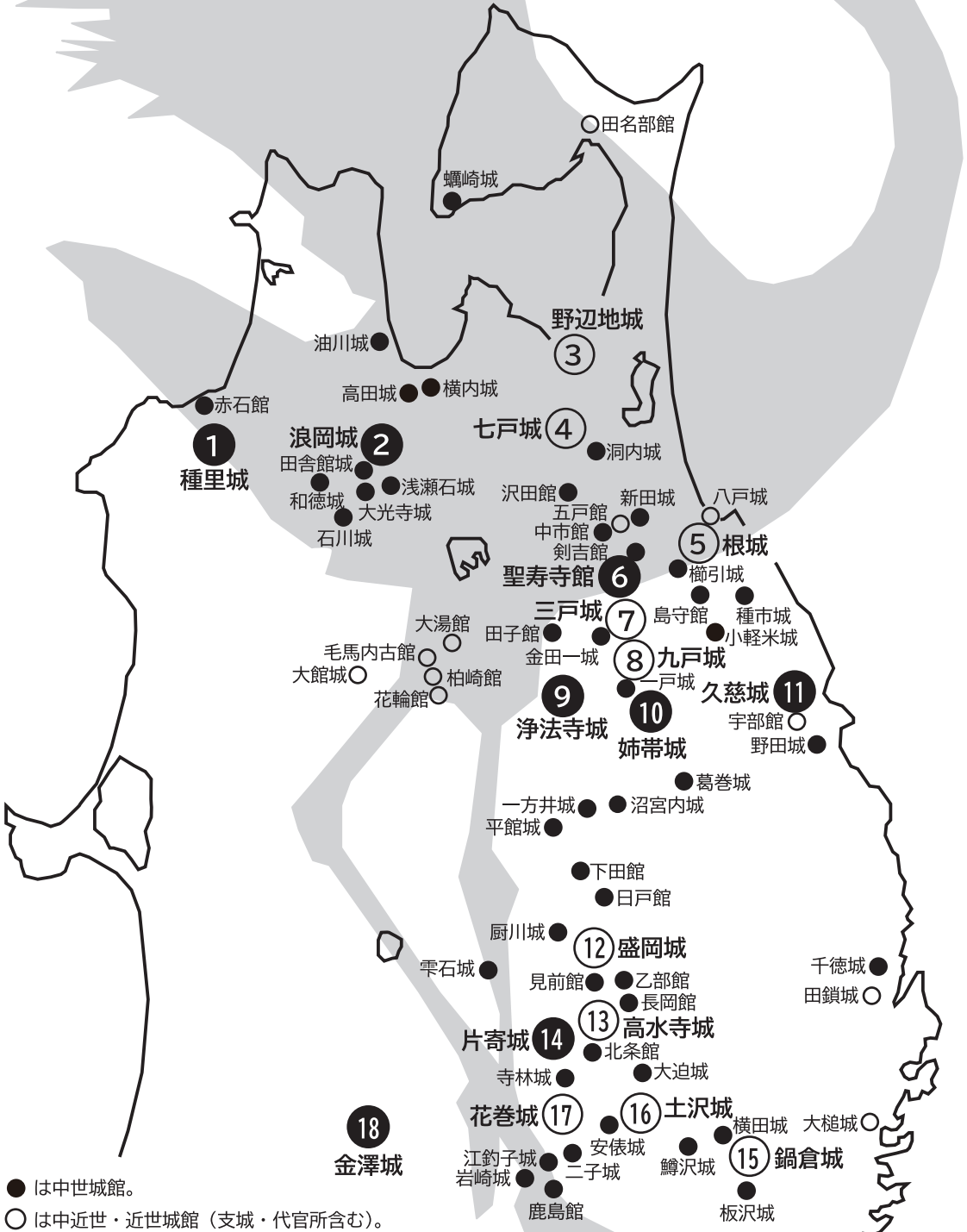
みなさんも割印が紹介する17のストーリーを知り、より深く南部の歴史をお楽しみください。

南部氏一族の歴史とお城

14世紀頃、甲斐から糠部(現在の青森県東部から岩手県北部)に移住した南部氏は、郡中に分散し、それぞれの居城を構えました(④・⑤・⑥)。これら南部氏一族は分家や家臣、近隣の国衆と一揆を結び、広く北東北を共同経営しました(②・③・⑧・⑨・⑪・⑬)。

15世紀中頃以降、隣郡へ侵攻を進めた南部氏一族を中心とする一揆は、安東氏や斯波氏を攻略し、領土を拡大しました(①・⑬・⑭)。しかし、天正年間後期になると一揆の中でも三戸南部家派(⑦・⑤・⑨)と九戸氏派(⑧・③・④・⑩・⑪)が対立し、両者は激しく争いました。豊臣軍の加勢を得た三戸南部家は、九戸氏派に勝利し、名実ともに大名になりました(天正19年(1591)・九戸一揆)。

大名となった三戸南部家は、南に広がった領地(盛岡藩)に合わせるように本拠を⑦三戸城から、⑧九戸城(＝福岡城)へ、そして⑫盛岡城に移しました。中世城館の多くは廃城しましたが、一部は支城や代官所に転用されました(③・④・⑦・⑧・⑬・⑮・⑯・⑰)。



割印組み合わせ

割印No. 1 ①種里城 × ⑪久慈城『御出立光信公御入部』

延徳3年(1491)、南部光信は軍勢を率いて久慈を出立、種里城に入り勢力を拡大した。光信を初代とする大浦氏は後に津軽藩を興す津軽為信を世に出し、光信は「津軽藩始祖」と崇められている。

割印No. 2 ①種里城 × ⑬金澤城『金澤御先祖津軽』

津軽藩の官撰史書「津軽一統志」附巻によると、種里城主南部光信を始祖とする津軽家の御先祖は、出羽仙北金澤に所領を有していた金澤右京亮だとされている。金澤右京亮の子孫は、下久慈を経て津軽に移ったという。

割印No. 3 ②浪岡城 × ⑦三戸城『南部政信浪岡城派遣』

戦国末期、津軽地方一帯は旧来勢力の南部氏と新興勢力の津軽氏によって、その支配権を巡る熾烈な争いが繰り返されていた。当主南部信直は、津軽の重要拠点「浪岡城」へ弟の政信を郡代として派遣した。

割印No. 4 ③野辺地城 × ④七戸城『南部領北方守護』

中世七戸南部家の本城である七戸城は、支城である野辺地城とともに、南部領内の北の要衝と位置付けられていた。七戸城は周辺地域の統括、野辺地城は西接する津軽領との境界警備を担う重要な存在だった。

割印No. 5 ④七戸城 × ⑤根城『七戸応永己亥八戸』

14世紀後半、根城南部家当主南部政光は家督を甥に譲り、自らは七戸城に隠居した。政光の後裔は七戸南部家として分立、以降根城南部家と七戸南部家は「ぬかのふなんふ一族」を支える有力氏族として共存共栄した。

割印No. 6 ⑤根城 × ⑮鍋倉城『八戸弥六郎直義』

根城南部家(遠野南部家)当主は代々、八戸弥六郎を名乗り、藩の筆頭家老を務めた。直義は元和6年(1620)分家新田家から養子に入り家督を継ぐ。寛永4年(1627)藩主の命で八戸から遠野に村替し、藩境警護にあたりながら遠野の礎を築く。

割印No. 7 ⑥聖寿寺館 × ⑦三戸城『本三戸炎上新三戸』

本三戸(聖寿寺館)を拠点とした三戸南部家は、巧みな戦略により北奥羽で最大勢力を築いた。天文8年(1539)更なる領土拡大と本三戸の炎上を契機に、中世糠部最大の山城「三戸城」へ拠点を移し、覇権獲得へと乗り出した。

割印No. 8 ⑥聖寿寺館 × ⑬金澤城『寛正南部小野寺弓矢』

寛正6年(1465)、三戸南部家は幕府からの要請に応じ、京に馬を送ろうとするが、小野寺氏との確執で出羽(仙北金澤周辺か)の通路が閉ざされ、馬の進上が滞る。幕府は事態収拾のために大宝寺出羽守へ道中警固を命じた。

割印No. 9 ⑦三戸城 × ⑧九戸城『九戸一揆』

豊臣秀吉に帰属した南部信直は南部内七郡の領主として認められる。一方で九戸政実を筆頭に在地領主らは独立維持を貫き、両者の対立は激化。天正19年(1591)、九戸氏と三戸家の存続をかけた戦いが奥州糠部の地で始まった。

割印No.10 ⑧九戸城 × ⑩姉帯城『九戸方天正十九籠城』

天正19年(1591)に起こった九戸一揆の際、姉帯城に籠る九戸方の姉帯氏は、浅野長吉ら再仕置軍に攻められ、わずか1日で落城した。その後、戦いの場は九戸城籠城戦へと移行する。

割印No.11 ⑧九戸城 × ⑫盛岡城『福岡城』

天正19年(1591)に起こった奥羽再仕置の最後の戦場となった九戸城。落城後、九戸政実を降した南部信直が入城し「福岡城」と改称した。寛永10年(1633)に信直の孫の重直が、盛岡城に入るまで三戸南部家の拠点となった。

割印No.12 ⑧九戸城 × ⑭片寄城『政実兄弟康実』

片寄城主中野康実は、九戸氏の出自で九戸政実とは兄弟関係にあった。斯波氏に婿入りしたが、後に南部信直の下に出奔し、斯波攻略に加わった。天正十九年の九戸一揆においても九戸方ではなく南部信直方に与した。

割印No.13 ⑪久慈城 × ⑬金澤城『金澤右京亮南部』

金澤右京亮家光は出羽仙北金澤に所領を有していたが、侍の一揆により討たれ、幼少の嫡男(南部右京亮家信)は家光の家臣により南部の地に届けられ、後に家信は本領であった下久慈を知行したと伝えられている。

割印No.14 ⑫盛岡城 × ⑬高水寺城『郡山城』

天正16年(1588)、高水寺城主斯波詮直は南部信直に敗北。高水寺城は郡山城と改称された。盛岡城築城に際しては南部利直の居城となったが寛文7年(1667)破却され、古材は盛岡城本丸に用いられたともいわれる。

割印No.15 ⑫盛岡城 × ⑰花巻城『盛岡城北上川花巻城』

盛岡、花巻にとって北上川 の存在は城下の防衛的・経済的にも重要な河川であった。一方では脅威ともなり、江戸時代に北上川 の氾濫による洪水で両城下町ともに甚大な被害を受けており、改修工事を行っている。

割印No.16 ⑮鍋倉城 × ⑰花巻城『盛岡藩領南端守護』

鍋倉城と花巻城は、広大な盛岡藩領において、最も警戒すべき伊達仙台藩との境で、最前線基地ともいえる重要な役割を担っていた。この重要拠点に盛岡藩は一族の根城南部氏直義と藩主子息の政直を配置した。

割印No.17 ⑯土沢城 × ⑰花巻城『対伊達睥睨之城』

慶長17年(1612)、花巻城と鍋倉城の中間地点に土沢城が置かれたことで、盛岡藩南端は岩崎城から大槌城に至るまで、仙台藩境の守備が一層強固なものになった。土沢城3代目城主江刺長房は花巻城代も務めた。